



健康社会学研究会 ニュースレター No.86

発行：健康社会学研究会

事務局：〒164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科（担当 森川 洋）

FAX 03-5860-4945 E-mail : h.morikawa@thu.ac.jp

ニュースレター No. 86 / 2018 年 9 月 編集担当：松岡正純

第122回 月例会の報告

日時：平成 30 年 2 月 3 日（土）15 時～17 時

場所：帝京平成大学中野キャンパス

テーマ：援助要請からの人材育成

保育実習生の援助特性と保育者の被援助志向性から保育現場の現状を考える

報告者：齊藤 崇（淑徳大学教育福祉学科）



第59回 健康社会学セミナーの報告

平成 30 年 3 月 17 日（土）東洋大学朝霞キャンパスにおいて、第 59 回健康社会学セミナーが開催されました。

「実効ある健康増進計画の策定と展開」というテーマのもと、実践報告として、三郷市健康推進課の八塚さん、飯能市健康づくり支援課の山本さんのお二方よりご報告頂きました。

それぞれの市における、計画策定の背景やプロセス、特徴などについてお話をお聞きすることが出来ました。計画策定にあたり、課題や問題点、地域特性などにおいて、それぞれで違いがあるのはもちろんですが、共通点も見られました。

まず、市民一人ひとりに合った、健康づくりに取り



組みやすい地域、まちづくりに向けた計画であるということ。さらに、市民や関係団体に加えて、企業など健康づくりの関係団体に限定せず、様々な人、団体を巻き込んで取り組みを進めていくということ。

このような「住民参加・参画」や「関係団体等との協働」という言葉はよく耳にしている、重要であると理解はしているものの、実践することは難しいことであるように感じています。

また、三郷市の計画においては、計画の実効性を高めるために、第1期では抜けていた「評価」の部分を第2期では、計画書内に「評価シート」を組み込むことで、進捗状況を毎年評価できるということでした。

計画を策定し、何をどれくらい実践することが出来たのか。その実践によって効果はあったのか。評価を通して、現状や新たな課題、問題点、さらには取り組みや活動における限界などを把握し、今後につなげていくということの大切さを改めて考える機会となりました。

文責 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科
鎌田早野香



第123回 月例会の報告

テーマ：学校保健の今日的課題や地域との連携

日時：平成30年6月2日（土）15:00～17:00

会場：東洋大学 朝霞キャンパス

発表者：内山 有子 氏（東洋大学 ライフデザイン学部 准教授）

コーディネーター：齊藤 恭平 氏（東洋大学 ライフデザイン学部 教授）

平成30年6月2日（土）東洋大学 朝霞キャンパスにおいて第123回月例会が開催されました。今回は「学校保健の今日的課題や地域との連携」というテーマで東洋大学ライフデザイン学部の内山有子先生にご講演いただきました。学校保健とは、「学校管理下での児童生徒の精神的・身体的健康を保持増進し、学校生活を健康的に過ごす能力や知識を身につける教育活動」と定義されています。

近年、子どもの健康課題は不健全な食生活、エネルギー摂取過剰、運動不足、睡眠不足、過度なストレスなどがあげられ、現代社会におけるごく普通のライフスタイルが子どもの健康問題として取り上げられるようになりました。健康な生涯を送るためには、児童生徒期に得られた生活習慣や健康意識が大きく影響するため、学校内だけでなく家庭・地域・社会が連携することにより、総合的な学校保健を推進していくことが、子どもたちの「生きる力」



をはぐくむためにも重要であるとのことでした。

しかしながら、価値観の多様化に伴う様々な問題の解決に追われる学校現場の多忙さから、学校が中心となって地域連携による学校保健の推進が容易なことではないという現実も露わになりました。このような実態を踏まえ、まずは保健教育における「生涯を通じる心身の健康」に関する知識や技術の教育を充実させ、子どもたちを取り巻く生活環境の整備に対して、「社会の責任」として取り組んでいくことが重要であることを学びました。

今回のテーマである「学校保健」は文科省所管ということもあり、個人的には厚労省所管の保健衛生部門とは取り組みへのスタンスが多少異なることを実感しました。地域連携や分野間協力をすすめる際に、こうしたスタンスの違いを理解したうえで取り組めるか否かで、その後の連携体制に影響することも本月例会を通して新たに得ることができました。より良い連携体制を構築するためにも、互いの事業目的や意図を理解し、「Win-Winな関係」の構築を目指すことの重要性を再認識する機会になりました。

(文責：上杉 剛)



平成30年度総会報告

去る6月2日(土)、第123回月例会終了後に「平成30年度総会」を開催しました。議長に鈴木了栄会員を選出し、議案書に基づき下記4議案について審議いただき、全ての議案について原案どおり承認されましたので、ご報告いたします。

進行：高澤委員

第1号議案：平成29年度事業報告(説明：杉田副代表)

第2号議案：平成29年度決算報告(説明：森川委員)

第3号議案：平成30年度事業計画案(説明：杉田副代表)

第4号議案：平成30年度予算案(説明：森川委員)

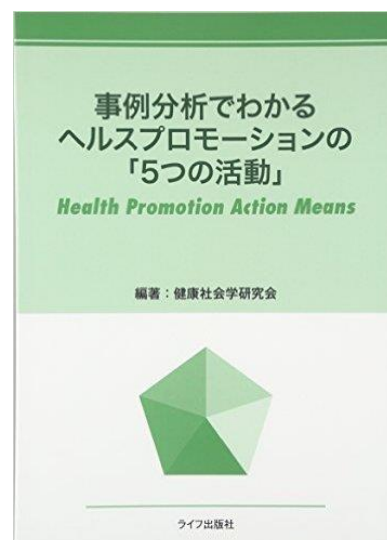
健康社会学研究会 代表 松岡正純

事務局より

○書籍のご案内

- ・「事例分析でわかるヘルスプロモーションの『5つの活動』～Health Promotion Action Means」健康社会学研究会編(ライフ出版)
- ・定価：¥2,500+消費税
- ・購入方法
会場販売(3割引 ¥1,900)：当研究会セミナー・月例会の際に販売
Amazon.co.jp より定価にて販売

本研究会の特色は、様々な分野で日頃より活動し、「人々の健康」をコンセプトに実践の世界と理論の世界を行き来しようとしている人たちが集っているという点にあります。



本書は、そういった会員の皆様より寄せられた具体的事例を取り上げ、「ヘルスプロモーションの5つの活動」という視点から検証しています。

会員の皆様にはすでにお送りしておりますが、関係各所にぜひご宣伝ください。事務局には本書のチラシがございます。必要に応じチラシをお送りしますので、事務局まで直接ご連絡ください。

ウェブ上では「書名(事例分析でわかるヘルスプロモーションの「5つの活動」)」を検索エンジンにかけると、ネットでの購入が可能です。

なお本研究会主催のセミナー・月例会・日本公衆衛生学会自由集会の際に直接会場にてお求め頂くと3割引き(税込み 1,900 円)での販売を行っております。

また本書に関するご意見、コメントなどもぜひお寄せください。よろしくお願いいたします。

☆残部に限りがございますが、本研究会に新規ご入会いただいた皆様には、本書を差し上げます。

○ニュースレターの電子化及び紙媒体での発送の継続

前号まで、ニュースレター電子化に伴い、郵送での発送の縮小化をお知らせしておりましたが、引き続きすべての会員の皆様には、紙媒体でもニュースレターをお送りすることとなりました。

なお事務局にメールアドレスを登録されている会員の皆様には、これまで同様、メール配信もいたします。またメールアドレスを登録されていても、所属先のサーバー上で弾かれてしまうこともあります。配信を希望される方は、受信可能なメールアドレスをお知らせください。よろしくお願いいたします。

○平成 30 年度会費納入のお願い

毎年会費の納入についてご協力頂きありがとうございます。今年度会費の納入がまだお済みでない方は、同封の払込票、もしくは銀行振込にて平成 30 年度会費の納入をお願いいたします。(既にお振込みいただいている場合、払込票は同封しておりません)

<会費納入先>

郵便振替:00100-8-41025

<銀行口座>

みずほ銀行広尾支店 普通 1842122 健康社会学研究会 代表 松岡正純

ゆうちょ銀行(金融機関コード:9900) 当座 〇一九店(ゼロイチキュー店:店番019)

0041025 ケンコウシャカイガクケンキューカイ

○平成 30 年度退会届

必ず平成 31 年 3 月 31 日(日)までにご提出ください。

なお平成 31 年 4 月 1 日(月)以降に、30 年度での退会のお申出をいただきましても、お受けすることは致しかねます。

○月例会報告者の募集(随時受け付け)

学会報告や論文の投稿を考えている方、学位論文作成中の方、月例会で報告してみませんか。仮テーマ、発表のご希望時期を事務局へお知らせください。